

令和5年度広報委員会行政視察報告書

広報委員長 宇留間 又衛門

目次

1	視察概要	3
	視察日程	3
	視察委員	3
	調査目的	3
	視察地及び調査項目	3
	(1) 船橋市議会 (1月16日)	3
	(2) 堺市議会 (1月17日)	4
2	視察報告	4
	(1) 船橋市議会	4
	視察テーマ	4
	視察概要	4
	(2) 堺市議会	10
	視察テーマ	10
	視察概要	10
3	視察の所感	15
	(1) 委員会中継	15
	【カメラの配置】	15
	【会議資料の公開】	15
	【字幕】	15
	【検索機能】	15
	【Youtube の活用】	15
	(2) SNS	16
	【周知方法】	16
	【LINE の活用】	16
	(3) ホームページ	16

1 視察概要

視察日程

令和6年1月16日（火）～17日（水）

視察委員

委員長 宇留間 又衛門

副委員長 三瓶 輝枝

委員 須藤 博文、亀井 琢磨、青山 雅紀、梶澤 洋平、渡邊 惟大

調査目的

今期の優先協議事項である委員会中継、SNS、ホームページに関する取り組みについて、他都市の事例を調査し、協議を進める上での参考とする。

視察地及び調査項目

（1）船橋市議会（1月16日）

視察テーマ：委員会中継とSNS

■委員会中継に関する取り組みについて

- ・概要（経緯、経費の内訳、視聴数）
- ・生中継時における議員の遵守事項
- ・不適切発言への対応（録画中継への影響）
- ・職員の作業内容と負担
- ・会議資料の掲載について（掲載開始時期、作業内容等）
- ・字幕表示について（実施に至った経緯、UDトークの選定理由等）
- ・視聴してもらうための工夫
- ・過去に行った改善や現状の課題について
- ・システムの仕様上、気になっているところ

■SNSに関する取り組みについて

- ・概要（発信手段の選定理由、発信内容、発信回数等）
- ・議員の関わり方（投稿に対する拡散の依頼、議員による投稿等）
- ・職員の作業内容と負担
- ・見てもらうための工夫
- ・LINEの導入経緯

(2) 堺市議会 (1月17日)

視察テーマ：委員会中継とホームページ

■委員会中継に関する取り組みについて

- ・概要（実施に至った経緯、経費の内訳、視聴数等）
- ・生中継時における議員の遵守事項
- ・不適切発言への対応（録画中継への影響）
- ・職員の作業内容と負担
- ・会議資料の掲載について
- ・視聴してもらうための工夫
- ・過去に行った改善や今後の取り組みについて

■ホームページに関する取り組みについて

- ・概要（掲載内容等）
- ・職員の作業内容と負担
- ・見てもらうための工夫
- ・リニューアルについて（実施に至った経緯、経費の内訳、効果等）
- ・システムの仕様上、気になっているところ

2 視察報告

(1) 船橋市議会

視察テーマ

委員会中継とSNS

視察概要

ア 説明者

船橋市議会事務局議事課

副主査 鳥居 正彦

主任主事 芝 祐介

船橋市議会事務局総務調査課

課長補佐 高橋 若葉

調査係長 加茂 大豪

イ 調査項目に関する回答

◆委員会中継

①概要（実施に至った経緯、経費の内訳、視聴数等）

【経緯】

- 平成 16 年 ・本会議中継開始（ライブ・録画）
- 平成 25 年 ・本会議中継リニューアル、スマートフォン版配信開始
- 平成 26 年 ・委員会（第 4・5 委員会室）中継開始（ライブ・録画）
- 平成 29 年 ・委員会（第 3 委員会室）中継開始（ライブ・録画）
- 令和 2 年 ・委員会の録画中継に、議題ごとの開始時間を表示
- 令和 3 年 ・本会議のライブ中継に字幕を表示本会議
・委員会の録画中継公開時に、会議資料を掲載

【経費の内訳】

- ・設備導入経費 86,761,980 円
- ・運用保守費（令和 5 年度） 7,825,400 円

【視聴数（令和 5 年第 4 回定例会）】

	本会議	委員会
ライブ中継	1,607 件	1,260 件
録画中継	2,660 件	656 件

②ライブ中継時における議員の遵守事項

特に取り決められたものはない。

③不適切発言への対応（録画中継への影響）

個人情報等、配慮が必要な不適切発言は該当箇所の音声を削除する。

④職員の作業内容と負担

会議前日まで	・委員会中継の準備（マイク、カメラ、テロップの調整等） ・中継テスト	
会議当日	会議開会前	中継システムの立ち上げ、エンコードの開始
	会議中	カメラ・テロップ作業
	会議休憩	ミュート作業
	会議再開前	ミュート解除
	会議中	カメラ・テロップ作業
	会議終了	エンコード終了、中継システムシャットダウン
	会議終了後	受託業者への編集指示作業
公開（2 営業日後）まで	・録画中継配信画面・映像等の確認 ・会議資料の掲載	

⑤会議資料の掲載について（掲載開始時期、作業内容等）

【掲載開始時期】

令和3年4月から実施（録画中継のみ）

【作業内容】

会議終了後、当日使用した資料（PDF）を議会中継システムのサイトにアップロードしている。

録画が公開されると同時に会議資料も閲覧できるようになっている

【掲載する資料の種類】

録画中継のみ下記のとおり資料を掲載

- ・当日の会議で配付した資料

録画中継ページにPDFで掲載

本会議：例）議事日程、諸般の報告など

委員会：例）協議用資料、執行部の説明資料など

- ・複数日の会議に関連する資料

録画中継ページに議案、発議案、請願陳情などを掲載している市議会ホームページのリンクを表示

【掲載しない資料】

- ・個人情報等、広く一般公表することに適さない資料
 - ・詳細説明・情報提供などの目的で議員にのみ配付される資料
 - ・傍聴者に「閲覧のみ」「配付しない」などの取扱いをする資料
- ※部数の都合により「閲覧のみ」としている資料は掲載

⑥字幕表示について（実施に至った経緯、UDトークの選定理由等）

【実施時期】

令和3年4月から実施（本会議のライブ中継のみ）

【実施に至った経緯】

広報委員会で、聴覚障害者や手話通訳者から要望がある旨、委員から提案があり、検討を進めた結果、音声認識アプリを使って、ライブ中継の音声を取り込み、文字に変換して配信するサービスを活用することとなった。

【UD トークの選定理由】

- ・他の自治体でも導入実績がある
- ・比較的費用が抑えられる
- ・容易に音声認識の結果をインターネット上で公開できる機能を備えている

⑦視聴してもらうための工夫

市議会だより、執行部の広報紙（広報ふなばし）、デジタルサイネージ、議会のホームページ、小・中学生、高校生の議会見学会、高校への出前講座等で議会中継を行っていることを広報している。

⑧過去に行った改善や現状の課題について

【過去に行った改善】

- ・録画中継へ会議資料の掲載
- ・UDトークを活用した本会議中継の字幕表示

【現状の課題】

本会議中継は平成 23 年 1 月定例会分から、委員会中継は平成 26 年の 2 月定例会分から録画中継を掲載しているため、一定の維持費用がかかっているため、公開期間を今後検討する必要がある。

⑨システムの仕様上、気になっているところ

特になし。

◆ SNS

①概要（発信手段の選定理由、発信内容、発信回数等）

【協議の経緯】

平成 24 年 2 月	議会運営委員会	議会改革の一環として会派から提案される
平成 24 年 4 月	議会運営委員会	広報委員会へ協議を移管
平成 25 年 7 月	広報委員会	LINE と Twitter 運用開始
平成 28 年 3 月	広報委員会	LINE と Twitter の運用ポリシーの見直し及び運用方針の策定
令和 2 年 10 月	広報委員会	LINE@サービスの LINE 公式アカウントへの統合により、LINE 運用ポリシー内の表記を一部修正

【SNS 導入時の協議内容】

- ・費用をかけずに実施する
- ・議会事務局が発信作業を行う
- ・発信情報は、市議会ウェブサイトのトップにある「お知らせ記事」の更新内容とする
- ・利用者からの投稿への返信はせず、情報発信機能に限定する

【SNS の活用方法】

会議等の開会情報等を掲載する市議会ホームページへの誘導機能として活用

【発信内容】

発信している主な内容	主な例
本会議に関すること	定例会の審議日程に関するお知らせ、当日の質疑・質問予定者及び順序、主意通告書の掲載のお知らせなど
委員会に関すること	開会（視察）のお知らせ、審査順序の掲載のお知らせ、特別委員会報告書の掲載のお知らせなど
市議会だよりに関すること	1面写真・イラストの募集のお知らせ、発行のお知らせなど
市議会からのお知らせ	議会見学会の開催のお知らせなど

【発信回数】

年間約150回

②議員の関わり方（投稿に対する拡散の依頼、議員による投稿等）

投稿の拡散をしてくれる議員はいるが、事務局からお願いはしていない。また、市議会のSNSを議員が投稿することはない。

③職員の作業内容と負担

案文作成→各SNSの管理画面へログイン→発信内容の入力画面に案文張り付け→複数の職員で内容の確認→発信

④見てもらうための工夫

LINE導入時にはポスターを作成し、議会フロア等に掲示したほか、県内の市町村議会、中核市議会、政令市議会に配布した。

また、市議会だよりや船橋市議会ガイドブック（全戸配布）に掲載している。

ウ 主な質疑（□：質疑、■答弁）

◆委員会中継

□スマホでは中継映像と資料を同時に見ることができないのか。

■スマホでは見ることができない。

□録画中継の画素数について議論したとのことだが、内容は。

■過去の録画中継のデータを消さずに残しているため、クラウドの利用料が高い。委託業者に確認したところ、録画中継の画素数を落とせば費用の削減になるとのことであったため、今年度の広報委員会で画素数を落とすことを議論している。

- いつまで録画中継のデータを保存するのか。
- 広報委員会の協議の結果、過去の録画中継を消さないこととなった。
- 職員の負担は。
- 当初は事務局で直営していたが、業務委託をしたことにより手間が減った。
- 中継業者は何年単位で見直しているのか。
- 市のルールに従って12年ごとに見直しを行なっている。次の見直しは令和7年度を予定している。
- UDトークの変換精度は。
- 固有名詞等を辞書登録することで変換精度を高めているが、誤変換はある。録画中継にも使いたいという話が広報委員会でもあったが、誤変換を残しておくのはよくないということになり、生中継のみの運用となっている。
- UDトークの変換精度を高める取り組みは。
- 導入時に単語登録を行っている。

◆ SNS

- LINEが無料とはどういうことか。
- 導入時の料金プラン（無料で制限なし）を使わせてもらっている。
- LINEの登録者が多い理由は。
- LINEは利用者が多いからではないかと思う。
- 市議会SNSを攻撃してくるアカウントをブロックしないのか。
- 最近落ち着いたため、ブロックはしていない。
- LINEとツイッターの発信内容は同じか。
- 同じである。
- 年間どれくらいフォロワー数が増えているのか。
- 年間約30人ずつ増えている。
- フォロワー数を増やす取り組みは。
- 議会だよりへの掲載や学校への出前講座の際に周知している。



説明を受ける委員



船橋市議会にて

(2) 堺市議会

視察テーマ

委員会中継とホームページについて

視察概要

ア 説明者

堺市議会事務局調査法制課

課長 川中 和也

課長補佐 西浦 陽子

イ 調査項目に関する回答

◆委員会中継

①概要（実施に至った経緯、経費の内訳、視聴数等）

【開始時期】

平成25年8月定例会より実施

【実施に至った経緯】

市民に開かれた議会への取り組みの一環として実施

【経費の内訳（本会議インターネット中継業務を含む）】

令和3年2月から令和6年1月までの総額（3年）〔債務負担〕

10,810,800円（委員会インターネット中継分の内訳は不明）

【視聴者数（令和3年度～令和5年度）】

生中継

令和3年度	令和4年度	令和5年度(12月末現在)
21,425件 (6,680件)	20,157件 (6,222件)	14,345件 (5,067件)

録画中継

令和3年度	令和4年度	令和5年度(12月末現在)
255,216件 (189,900件)	262,790件 (192,665件)	133,880件 (96,041件)

※（ ）内はスマホ・タブレット版の視聴者数

②生中継時における議員の遵守事項

特に取り決められたものはない。

③不適切発言への対応（録画中継への影響）

録画中継の中に不穏当発言等の会議録に掲載しない発言等がある場合は、受託業者に消音等の処理を行わせる（会議録における発言の取消・訂正手続にあわせて処理）。

録画中継の配信開始時期は、会議の翌日から起算して概ね3日後からとしているが、消音等の処理がある場合は、録画中継の公開が遅れることもある。

④職員の作業内容と負担

会議前日まで		・ 委員会質問表の送付（中継画面への掲載） ・ 中継画面の確認
会議当日	会議開会前	中継システムの立ち上げ、エンコードの開始
	会議中	カメラ・テロップ作業
	会議休憩	ミュート作業
	会議再開前	ミュート解除
	会議中	カメラ・テロップ作業
	会議終了	エンコード終了、中継システムシャットダウン
	会議終了後	受託業者への編集指示作業
会議翌日から2日後		録画配信画面、映像等の確認

⑤会議資料の掲載について

特に掲載している資料はない。

⑥視聴してもらうための工夫

- ・ 市議会ホームページ上の「インターネット議会中継」ボタンを目立つように配置。
- ・ できる限り少ない回数で映像にたどり着けるようにする。
- ・ 日程や委員名による検索だけでなく、キーワード検索も可能にしている。 など

⑦過去に行った改善や今後の取り組みについて

【改善】

議場システムの更新による会議中の作業人員の削減

従来：委員会室につきカメラ1名・テロップ1名の2名体制

改善後：カメラ・テロップ作業を1名体制で実施

【今後の取り組み】

生中継配信を YouTube により実施することにより、映像配信に係る経費を大きく削減（試算：5年間で約800万円の減）

◆ホームページ

①概要（掲載内容等）

議長・副議長	・議長・副議長のあいさつ／・主な公式行事の記録／ ・歴代議長・副議長 など
議員名簿	・委員会別／・会派別／・五十音順 など
会議情報	・会議日程／・議案書（付議案件等）／・議会力向上会議／ ・議会 BCP 会議 など
会議結果	・議決結果（賛否の公表）／・可決された意見書・決議 など
市議会のあらまし	・議会基本条例／・市議会の役割／・市議会の仕事／ ・市議会の構成 など
議会広報	・議会のうごき／議会報告会／・議会発行資料
傍聴	・傍聴のご案内／ など
請願・陳情	・請願・陳情のご案内／ など
情報公開	・特別委員会の活動／・委員会活動（行政視察）／ ・海外調査研究派遣報告書／ など
議会事務局から	・議会個人情報保護制度／・行政視察の受け入れ／ ・議会図書室／ など

※その他、会議が開催される日は、ホームページ画面上部に、「本日の会議」の予定を掲載（会議がない日は、「主な会議の予定はありません」と表記）。

※アクセス数について、市議会ホームページは、市の CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）上で作成しているため、議会としては把握をしていない。

②職員の作業内容と負担

先述のとおり、市の CMS 上で作成を行っているため、特にホームページ構築のための知識等は必要とせず、誰でも容易に更新との作業を行うことが可能。負担となっていることは特にはない。

③見てもらうための工夫

令和4年1月にホームページのリニューアルを行った際、ホームページをすっきりと見やすいものとし、分かりやすい情報発信に資するため、「必要性の低い項目の削除」「カテゴリーの整理」を行った。

従来、「議員名簿」「会議情報」等、6つのカテゴリーで構成していたが、1つのカテゴリー内の情報を減らし、情報整理を行うことにより、情報にたどり着きやすくした。

また、全体の見た目やサイト仕様等は、市ホームページと統一性を持ったものとした。

④リニューアルについて（実施に至った経緯、経費の内訳、効果等）

【実施時期】

令和4年1月

【実施の経緯】

市ホームページのリニューアルに伴い、あわせて実施することとなった。

【経費の内訳】

市ホームページのリニューアルに合わせて実施したため、議会独自の経費は発生していない。

【効果等】

特に効果検証は行っていない。

⑤システムの仕様上、気になっているところ

現在、市のCMS上でホームページの作成を行っているため、議会ホームページを大幅にリニューアル等したいと考えても、その対応が難しい。

ウ 主な質疑（□：質疑、■答弁）

◆委員会中継

□生中継の遵守事項はないとのことだが、過去に不適切発言はあったか。

■過去にはあった。会議録の訂正を行うようなものについては、中継の該当箇所の音声を消す対応をした。陳情者の発言の際、不適切発言が含まれることが稀にあるため、該当箇所の音声を消して公開している。

□中継の工夫としてキーワード検索があるが、それをできるようにするための費用は。

■キーワード検索ができることを調達時の仕様に入れてあったため、個別にいくらかかったか把握していない。

□生中継をYouTubeで行うとのことだが、カメラやテロップ操作等、職員の手間は変わるのか。

■カメラやテロップ操作といった作業はYouTubeでも行うため、手間は変わらない。

□YouTubeについて、画質等クオリティは変わるのか。

■大きな差はない。YouTubeでもきれいに见れる。

□YouTube について、いずれ録画中継もするのか。

■ダウンロード後に加工されることを議員が気にしているため、現在は生中継のみとしている。しかし、現行の録画中継のデータも動画キャプチャーソフトを使えばダウンロードができてしまう。また、生中継においても、スマホの画面録画といったデバイスに元々搭載されている機能でダウンロードができてしまう。

□中継操作にかかる職員の人数を2名から1名に削減したが、どのような工夫をしたのか。

■以前のシステムは、カメラ操作とテロップ操作を別々に行う必要があったため、操作者が2名必要であったが、現システムはカメラとテロップが連動しているため操作者を1名に減らすことができた。

□議会中継に字幕を表示することは考えているか。

■議論になったことがないため、考えていない。なお、本会議の傍聴席モニターにはAI音声認識システム（UDトーク）を使用して字幕表示を行っている。ただし、変換精度に問題があるため、議会中継で配信することは考えていない。

□意見陳述も中継しているとのことであったが、本市は休憩中の審査としている。当初からそうであったのか。

■意見陳述を始めたタイミングとネット中継を始めたタイミングが平成25年からであったため、当初から中継している。なお、会議の発言であるため会議録にも意見陳述の発言は残している。

□議員が一般質問でモニターに映す資料を、議長がチェックしているとのことであるが、議長チェックで使用できなくなった事例はあるか。

■個人名が載っていた資料があったため、名前を削除して使用した。

◆ホームページ

□リニューアル後は更新履歴を掲載しなくなったのか。

■更新履歴だけ見てもどこをどう直したのか市民は分からないため、更新後のホームページには更新履歴を掲載していない。



説明を受ける委員



堺市議会にて

3 視察の所感

行政視察後に開催した広報委員会において、各委員が視察先で「見て感じた」ことを共有し、今後の委員会活動に活かすために意見交換を行った。

その内容をもとに協議し、次のとおり、把握した状況を委員会の所感として取りまとめた。

(1) 委員会中継

【カメラの配置】

千葉市は各部屋カメラ1台で運用しているが、船橋市、堺市は複数台で運用し、執行部を撮影しているため効率的であると感じた。撮影方法は各自治体の建物の構造による部分があるので、各自治体の取り組みについて学び、試行を重ねることが重要と考える。

【会議資料の公開】

パソコン版は、動画とともに資料を見ることができて市民に分かりやすいと感じた。しかし、スマホ版では動画と資料を同時に見ることができないため、同時に見ることができるとなお良いのではないかと考える。

【字幕】

船橋市はUDトークを利用して生中継の字幕配信を行っており、障害のある方への情報保障の観点からも良い取り組みであると感じた。誤字変換があるため録画中継は行っていないとのことであったが、誤字があっても字幕配信をした方が良いのではないかと考える。

【検索機能】

船橋市、堺市は録画中継が質問項目等のキーワードから検索できるようになっているため、市民目線で便利な機能であると感じた。

【YouTubeの活用】

堺市は生中継を業務委託からYouTubeへ切り替え変えることによって、経費を削減できたとのこと。経費削減と中継の質のバランスを考え、将来的にはYouTubeの利用などを考える必要があると感じた。

(2) SNS

【周知方法】

船橋市は議会だよりのスペースが空いた時に SNS の周知文を掲載しているとのことであったが、千葉市においては毎号掲載して周知を続ける必要があると感じた。

フォロワー数を増やすことは容易ではないため、周知できる機会を活用して PR すること、また、広報委員を中心にリポスト等で拡散を行っていくことが必要と感じた。

【LINE の活用】

船橋市は LINE の登録者が Twitter よりも多く、より多くの市民に議会情報を届けられる取り組みだと感じた。

(3) ホームページ

堺市はカテゴリーを減らすことでページを見やすくするリニューアルが行われており、「何を伝えたいのか」「市民が何を知りたいのか」という視点でホームページのあり方を考えていくことが大切だと感じた。

また、市ホームページと同じデザインとなっているため、統一性が図られており、見やすさや操作の分かりやすさが良いと感じた。一方、大幅なリニューアルができないという欠点があると感じた。